

老舗和菓子店の技術力とアイデア力を 活かし海外展開と販売力強化を実現

課題

競争激化のなか収益低下と 集客力の低さが課題

有限会社三寿園は、江戸時代末期に創業。今年で創業155周年を迎える老舗和菓子店である。5代目稲垣信彦が1978年に製造・販売を開始したバームクーヘンが名物で、近年は本格的な洋菓子の製造販売も行っている。国内の菓子店舗数の飽和状態に加え、コンビニエンスストアの台頭、利便性や価格競争などで、適正価格での商品販売ができておらず、「三寿園ブランド」の確立は喫緊の課題だった。さらに、新規顧客の開拓のために、隣接市のイベントやデパート催事、三重県などの県外イベントに参加し、三寿園のPRと商品販売を実施したが、実店舗への売り上げには結びつかず、集客向上のためにさらなる手立てを考える必要があった。

しかし、経営者が製造と営業を兼務しているため、つねに人手不足状態という課題もある。さらなる事業拡大に向けて、ブランド力の強化を感じていた経営者は、売り上げ拡大を目指し、大規模な店舗リニューアルを行った結果、少しずつその効果が表れ、新たなブランドイメージの構築と売り上げアップが図ることができたが、新しい販路の開拓や、財務体質の改善など、解決すべき課題が山積みだった。

支援

海外販路開拓事業で 新製品開発と海外展開を実現

相談を受けた豊明市商工会は、小規模事業者持続化補助金の申請を支援。それに基づき経営者は、情報発信のためのニューズペーパーやホームページ作成、店舗ロゴやオリジナル包材のデザイン製作を行った。目立つように大型看板も設置した結果、売り上げは対前年比36%程度向上した。さらに、経営者に商工会の事業計画策定支援事業に参加してもらい、専門家の指導により事業計画を策定することにより、リニューアル後の販売促進や販路拡大について順を追って具現化していくことができた。これにより、新商品の開発や、百貨店・SA・ネット・イベントなどへの販路拡大などに取り組むことができた。

そんななか、イベントなどで自家精米による団子が売れることがわかり、団子を移動販売で提供することで宣伝力を高め、売り上げ拡大を図ることとなった。2017年に愛知県商工会連合会の海外販路開拓事業として台湾でみたらし団子の



台湾で行われた展示会に出店した様子

実演販売を行ったところ、現地の人々に和菓子への興味を広げることができ、大きな売り上げを上げることができたことから、収益性が高い台湾出店を本格的に目指すことになった。そのため、商工会の事業計画策定支援事業を利用し、専門家とともに事業計画の見直しを図った。2018年には持続化補助金で台湾での商談推進と自動団子製造機を購入。人材確保のため、専門家による雇用管理制度の整備支援や海外商標登録の支援も受け、正規従業員1名を雇用した。

今後は台湾でのFC店舗展開を目指し、持続化補助金を活用して台湾の原材料調査やフランチャイズ展開ができる出店候補地の調査、台湾米を使用した三寿園だんごの試作、台湾の食文化に合った新商品開発を行っていく。

支援の経過

期間	支援内容
2015年2月～	補助金申請支援
2016年7月～	専門家による事業計画の策定支援
2018年1月	専門家による商標登録の申請支援
2018年11月～ 2019年3月	専門家による労務管理計画の策定支援

会社概要

会社名：有限会社三寿園
住所：愛知県豊明市阿野町西ノ海戸34
電話番号：0562-92-0737
URL：http://www.sanjuen-toyoake.com
代表者名：稲垣宝謙
創業年：1865年（慶應元年）
従業員数：9名
商工会名・担当者名：豊明市商工会・浅田定弘